

令和元年度えるびす(放課後等デイサービス) 自己評価表

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6			・その日の利用人数によって、セラピーマットやテーブルなどの配置を変え、動線や活動が行いやすい環境にしている。
	② 職員の配置数は適切であるか	6			
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	5	1		・出入口のバリアフリーが完全でないため、車椅子での移動の際には衝撃が最小となる様に配慮している。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	6			
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6			・アンケート調査は年1回実施している。(今年度は9月に実施)
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6			・法人ホームページで公開している。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか				6 ・第三者機関の評価は行われていない。外部委員会として、副理事長や利用者代表に委員を依頼し、チェックしていただいている。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6			・入社時には新入職員研修を実施している。また、感染症予防や虐待防止、摂食の勉強会等を行い、原則として全員参加。 ・外部講師を招き、腰痛予防講座を受ける。(12月実施)
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	6			
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5		1	・使用しているが、重症児が多い為、標準化しづらい。日々の関わりで子どもの状態を的確にとらえる目を支援者が身に着ける努力をしている。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	6			
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6			・様々な感覚の刺激を体験できるよう、粗大運動、スヌーズレン、音楽、工作などを日ごとに変えて計画している。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	6			・長期休暇には放課後の時間ではできない活動を取り入れるようにしている。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	6			・個別活動は個別支援計画作成、モニタリングの職員ミーティングで出たアイデアを日々の活動に取り入れている。集団活動では季節を感じられる活動を行い、異年齢交流の場となるよう配慮している。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6			
⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	2	4	2	・以前よりは充実しているが勤務形態等によりできていない日もある。一人一人から気づきがあればその場で共有するようにしている。 ・振り返りの時間がとれないときは、個々に責任者に伝えたり、翌日の支援前の打ち合わせでや申し送りファイルで共有するようにしている。	

	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5	1		・正しく記録を取ることを前提としつつ、それにとらわれず、利用者様と向き合う時間を大切にするため、記録方法の検証・改善を行っている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6			・全職員で共有する時間を設けている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	6			
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	1	5		・現時点で相談支援事業所より参加依頼はなく、参加したことがないが、依頼があれば積極的に参加していく。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	6			・送迎時の学校からの申し送りがあり、必要時は直接電話で連絡を取り詳細を聞き取るようにしている。・月1回「静的弛緩誘導法」の学習会にも参加し、情報交換しているが、支援目標等の理解共有を更に多く行える工夫をしていく必要がある。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	6			・必要に応じて連絡体制をとっている。保護者を通しての情報把握は常時できている。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	2	4		・今のところは、相談支援専門員や保護者との情報共有となっている部分が多いので、連携して行くように努める。 ・事業所として研修で行かせていただいたことはある。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	4	1	1	・今のところ事例はないが、必要が生じれば移行先へ支援内容等を情報提供することができる状態である。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	2		・事業所として重心連絡会や放課後連の研修会に参加したり、他の医療機関の医師や看護師と交流の機会がある。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	1	4	・感染や安全性などを考慮し、今のところ取り組んではない。保護者・ご利用者の希望があれば検討する。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	6			・事業所として参加している。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5	1		・保護者との情報共有はしているが、より深める努力をしていく。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	1	2	3	・ペアレントトレーニングの知識を学んでいく必要がある。必要時には、医療的ケア、静的弛緩誘導法、摂食等知識がある職員が伝えるようにしている。
保護者	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6			・契約時に「重要事項説明書」「契約書」を用いて説明の機会を設けている。

口への説明責任等	③①	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6			・相談の内容に応じて、医療的ケア、静的弛緩誘導法、摂食等知識がある職員が助言したり支援するようにはしている。皆でより理解を深めて適切な助言・支援ができるようなさらなる工夫が必要。
	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	5	1		・年1回開催している。(令和元年度は11月開催)
非常時の対応	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6			
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4	2		・法人で年2回発行している。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	6			
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5	1		
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	4	2		・支援中の散歩などでは地域の方と積極的に関わりを深めている。幅広い分野に働きかけ、慰問・ボランティアを依頼し、交流している
	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	6			
非常時の対応	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6			・今年度は7、9月には不審者対策、10月には防災訓練を実施。 ・月に1回、訓練に関する課題を話し合ったり、実践する時間を設けている。 ・地域の防災訓練に参加している。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6			・11月に実施。「虐待防止の手引き」のチェックリストを使い振り返りを行ったり、放課後連の虐待の研修の情報を共有している。外部カウンセラーと契約して、相談できるようにしている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	6			
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	6			
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6			・ファイリングし、スタッフ間で共有している。